



伊都キャンパスに、研究者向け木造3階建て宿泊施設 「伊都ゲストハウス」が完成

概 要

九州大学伊都キャンパスで実施されている様々な研究プロジェクトのために来訪する国内外研究者向けの宿泊施設として、木造3階建ての「伊都ゲストハウス」が完成しました。

今後の利用促進を図るため、来る4月12日（木）14時から、学内外の関係者を招き完成披露式典を開催します。

■背 景

伊都キャンパスでは、水素エネルギーやナノテクノロジー、有機光エレクトロニクスを始めとする数多くの国際規模の大型プロジェクトや産学連携研究プロジェクトが実施されており、今後も国内外から多くの研究者の来訪が見込まれています。

その一方で、伊都キャンパス内には国内外研究者向けの宿泊施設が無いばかりか、周辺地域の民間宿泊施設も数的に需要に追いついていない状況にあるため、国内外研究者のみならず学内からも宿泊施設建設の要望が数多く寄せられていました。

■内 容

【伊都ゲストハウス】

| | | | |
|------|------------------------|----------------|-------|
| 構 造 | 木造3階建て | | |
| 面 積 | 建築面積 859㎡ | 延べ面積 | 2110㎡ |
| 工 期 | 平成23年8月23日～平成24年3月30日 | | |
| 総工事費 | 521,967千円（消費税込み） ※什器別途 | | |
| 基本設計 | 九州大学 施設部 | | |
| 実施設計 | (株)徳岡設計 | | |
| 工事業者 | 建築：松井建設(株) | ※軸組：木構造システム(株) | |
| | 電気：西部電業(株) | | |
| | 機械：山和(株) | | |

全戸数33戸（単身者用27戸、夫婦用4戸、家族用2戸）で、純木造の公共建築物としては福岡県内最大規模

【完成披露式典】

| | | | |
|----|---------------------------------|-------------|--|
| 日時 | 4月12日（木）14:00～15:55 | | |
| 会場 | 九州大学伊都キャンパス「伊都ゲストハウス」（玄関前特設テント） | | |
| 次第 | 14:00 | 開会 | |
| | 14:30 | テープカット（玄関前） | |
| | 15:00 | 概要説明 | |
| | 15:15 | 内覧会 | |

■効 果

伊都ゲストハウスの建設は、平成22年度福岡県森林整備加速化・林業再生事業の補助を受けて実現したもので、総事業費の約半分が補助されています。

昨今の地球温暖化防止に向けた低炭素社会の実現が求められる中で、間伐等の森林整備の加速化と間伐材等の森林資源を活用した林業・木材産業の再生を図ることを目的とした事業です。

木造公共施設として地域材（福岡県産）の利用を喚起し、木材の需要のさらなる拡大につなげ、広く普及することも目的の一つです。

■今後の展開

国内外研究者向けの宿泊施設として、居住者同士が交流できる談話ホールや共同キッチンを設けているほか、学内外の様々なイベントにも利用できる多目的ホールや会議室なども設けています。

伊都キャンパスの豊かな自然環境に調和した外観と、国内外の研究者を迎えるに相応しい和の雰囲気を感じられるシンボリックな施設となるとともに、新たな感覚による木造施設の需要の創出が期待されます。

【お問い合わせ】

国際部国際企画課 井芹（いせり）

電話：092-642-2135

FAX：092-642-4242

Mail：intlkhosa@jimu.kyushu-u.ac.jp



九州大学 「伊都ゲストハウス/Ito Guest House」施設概要



完成写真（南面）

事業に至る経緯

平成22年10月 平成22年度福岡県森林整備加速化・林業再生事業にエントリー
 平成23年 1月21日 福岡県議会承認
 平成23年 3月17日 交付決定通知
 平成23年 3月～7月 実施設計

事業概要メモ

施設名称 伊都ゲストハウス/Ito Guest House
 所在地 福岡市西区大字元岡744番地（九州大学構内）
 構造 木造3階建て
 面積 建築面積 859㎡ 延べ床面積 2,110㎡
 工期 H23.8.23～H24.3.30
 総工事費 521,967千円（消費税込み）
 設計 九州大学施設部（株）徳岡設計
 施工 建築：松井建設(株)
 電気：西部電業(株)
 機械：山和(株)

施設整備の目的

九州大学伊都キャンパスで実施されている、水素エネルギーやナノテクノロジーなどの国際規模の大型プロジェクト、産学連携研究プロジェクトのために来訪する外国人研究者等の宿泊施設の整備である。また、整備費の約1/2を補助金とする「平成22年度福岡県森林整備加速化・林業再生事業」に採択され、木造公共施設として地域材（福岡県産）の利用を喚起し、木材の需要のさらなる拡大につなげ広く普及することも目的としている。

設計コンセプト

■新たな自然環境の創出

- ・四季折々の表情が感じられる植栽計画（ウメ、シダレザクラ、イロハモミジ等）
- ・和の佇まいが感じられる外構計画（木格子塀、玉砂利洗い出し、砂利敷き等）

■安全・安心・快適な居住環境の創出

- ・1F共用部と居住者エリアの明確化（床仕上げによる区分、建具による区分）
→プライベートとパブリックを明確に分けつつも、中庭を介して柔らかくつなぎ、「空間の奥性」が感じられる平面計画

- ・バルコニーの木格子によるプライバシーの確保
- ・ライトコートにより通風・採光を十分確保でき、明るく快適な中廊下の環境づくり
- ・共用部は何処にいても外部の自然が見えるよう視線の抜けに配慮した平面計画

■コミュニケーションが生まれる共用空間の創出

- ・1Fは学内の様々なイベントに活用可能（多目的ホール、会議室、和室、ライトコート）
- ・各階に居住者の溜まり場を配置（談話ホール、談話コーナー、共用キッチン）

■木造公共建築としての可能性

公共建築物を木造で設計するにあたり、木の魅力を最大限に引き出したデザインを目指した

- ・木造建築の力強さを、燃えしろ設計により外部への露出を可能とした木柱によって表現
- ・木造建築の繊細さを、バルコニーの縦木格子や水平ルーバーによって表現
- ・木造建築の優しさを、杉羽目板張りの腰壁や杉竿縁の天井などによって表現
- ・木造建築の可能性を、小径部材の使用が可能な拡張樹脂アンカー工法によって実現

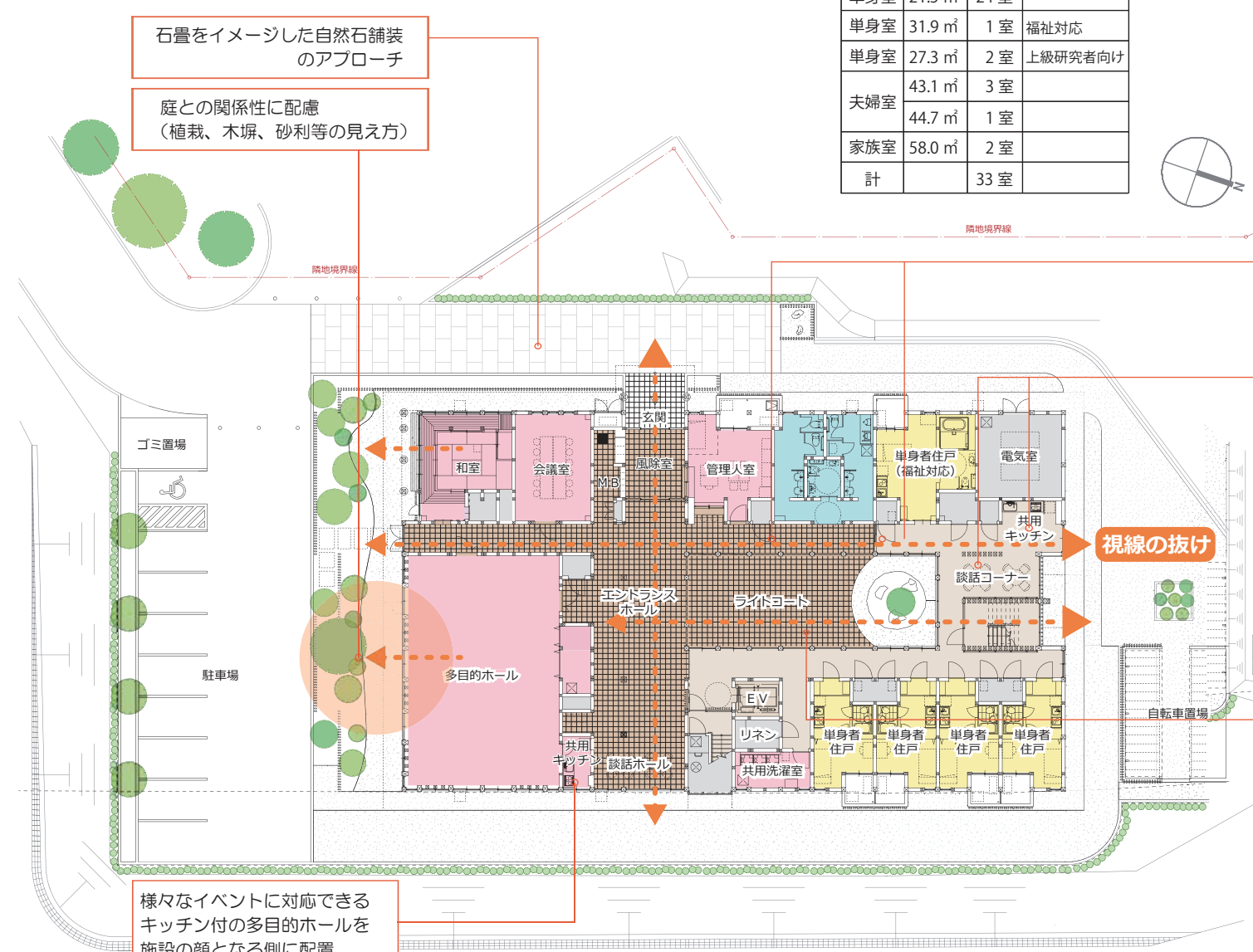
■自然エネルギーを利用した快適な住まいづくり

一年を通して自然エネルギーを上手く活用できる施設を目指した

| 室名称 | 面積 | 室数 | 面積 |
|-----|-------|-----|---------|
| 単身室 | 21.5㎡ | 24室 | |
| 単身室 | 31.9㎡ | 1室 | 福祉対応 |
| 単身室 | 27.3㎡ | 2室 | 上級研究者向け |
| 夫婦室 | 43.1㎡ | 3室 | |
| 夫婦室 | 44.7㎡ | 1室 | |
| 家族室 | 58.0㎡ | 2室 | |
| 計 | | 33室 | |

石畳をイメージした自然石舗装のアプローチ

庭との関係性に配慮（植栽、木塀、砂利等の見え方）



様々なイベントに対応できるキッチン付の多目的ホールを施設の顔となる側に配置

1階平面図

バルコニーに木格子を設置することで通風・採光を確保しながら視線を遮りプライバシーを確保すると同時に洗濯物や室外機を隠す意匠計画

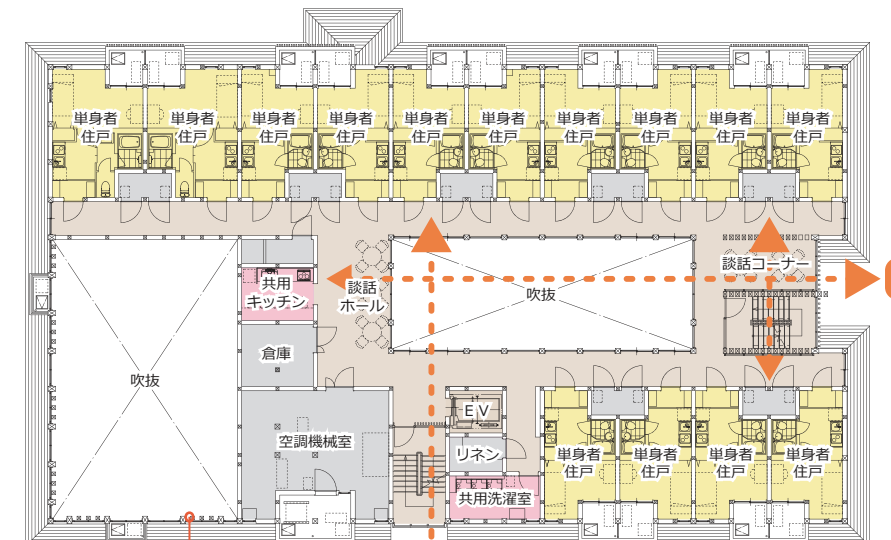
談話ホールや共用キッチンライトコートに面して設置

深い軒や霧庇により雨掛かりを防止し木や外壁の長寿命化を図る



視線の抜け

3階平面図



視線の抜け

2階平面図

共用部と居住者エリアを明確に分離することで安全・安心な居住環境を確保

共用部を充実させることで日常生活の中で自然と交流が生まれる空間を創出

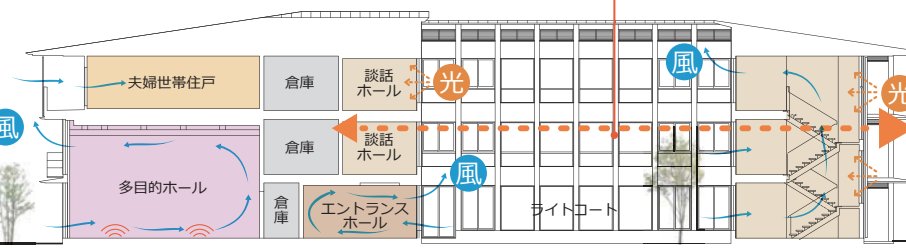
雨水はそのまま落とす計画とし樋がなく端正で魅力的な屋根のデザインを心がけた

茶会等の催しを想定した石庭を配したライトコート



外周部の柱を燃えしろ設計とすることで木の表情を生かした外観デザインとした

東立面図



光が差し込み風が抜ける中庭

視線の抜け

断面図